

令和7年度 第2回上溝高等学校運営協議会 議事録

令和7年 11月 19日(水) 15:00～16:30

場所:上溝高等学校 会議室

学校運営協議会委員

会長	小泉 力也	上溝高等学校第 29 代校長
副会長	林田 裕之	上溝高等学校校長
委員	横山 恵史	相模原市立上溝中学校校長
委員	関島 茜	本校 PTA 会長〈欠席〉
委員	小山 美代恵	同窓会(鳩友会)会長
委員	鈴木 崇之	上溝商店街振興組合理事長
委員	永野 堅次	上溝地区社会福祉協議会会長
委員	倉橋 強治	自治会法人本町自治会会長〈欠席〉
委員	山口 信郎	神奈川県更生保護協会副理事長

学校職員

林田 裕之	学校長
森 仁	副校長
前田 崇暢	教頭
齋藤 学	事務長
秋庭 真季	学務グループ
倉橋 彩花	生徒活動グループ
池田 岳史	支援相談グループ
丸茂 千秋	キャリアグループ
橋口 圭一郎	地域連携グループ
木村 信彦	学校管理グループ
浦山 稔	地域連携グループ(記録)

1 授業見学 15:00～15:20

2 副校長挨拶 15:30

・資料確認

3 校長挨拶

これまでの活動について手短にご報告させていただき、できるだけ多くの皆様からのご意見を頂きたい。

私としては8月の頭から学校説明会で私自身が挨拶やプレゼンテーションをする場面があり、上溝高校をどのように表現するかということで4月より言葉の選び方を考えてきた。それがある程度固まってきたのでそれをご報告して私の挨拶としたい。

一言で魅力を伝えるためにキャッチーな言葉を使うと、上溝高校の魅力としては「駅から近い」、「校舎がきれい」、「学食がある」といったことを入り口として「歴史と伝統」、「地域との密接なつながり」といったことを伝えている。学校が持つ特色として「学校生活を送るのに安心感がある」、「優しさがある」というところを最後に伝えるようにしている。高校生も難しい問題を抱えている子がおり、いろいろな子がいる中でそれぞれが安心して過ごせる学校でありたいと思っている。そういう優しさをもった学校であるということ伝えている。具体的な話は各グループ総括からお話するのでお聞きいただき、ご質問、ご意見などたくさんいただければと思う。

4 第1回学校運営協議会で出席していなかった職員の紹介

5 学校評価部会(学校運営に関する中間報告)

(1) 令和7年度学校評価中間報告

○秋庭(学務グループリーダー)

教育課程及び学習指導について状況をご報告したい。昨年度までの3年間に引き続き、今年度から新たな3年間は学習評価に関わる研究指定校となっている。1学期終わりに生徒による授業評価アンケートを実施した。「授業の中で示された狙いについてできるようになった」は4段階の評価のうち「かなりあてはまる」が昨年度より 5.3 ポイント上昇、一段階下の「ほとんどあてはまる」と合わせると 84%の生徒が肯定的に回答しており、授業改善の成果が上がっている。

探究学習の手法を学びながら、というところで昨年度から地域探究を始めている。今年度は1年生で地元の商店街や自治会館、中村書店と連携しての取り組みを行っている。校内での活動になっており、地域に出て行っているいろいろな場面で発信できるようにすることが今後の課題である。

教育課程について。令和8年度からの課程は学校説明会等で繰り返し周知しているところである。現在在籍している生徒については、次年度の選択科目については各担任が面談等を通じて将来の進路を考えながら細やかな指導を行っている。その結果、3年次の自由選択科目の受講者が例年よりも増え「フードデザイン」、「アート探究」といった大学や専門学校で学ぶ前に学んでおきたい教養を高めたいという希望があったものと解釈している。今後もキャリアグループと連携しながら生徒の需要に対応した教育課程を構築していく。

公開研究授業や職員研修について(資料4・5)。令和6年度までの3年間及び令和7年度からの3年間を同じ分野で指定校となっている。今年度は新たにモデレーションというテーマに取り組んでいる。モデレーションとは、複数人で評価基準や評価結果を検討するという取り組みのことで、教員は日常的に行っているが、新たに生徒に評価に関わらせてみる、評価基準を策定する場面で生徒の意見を取り入れるという研究を行っている。評価基準をつくるためにはその単元で何ができていなければならないか、何を身に付けていなければならないかを理解しなければならず、生徒自身が「自分はどのように頑張らなければならないか」を見通しやすくなるのではないかと、という狙いがある。新しい取り組みなので福

井大学教授をアドバイザーに招き、モデレーションとはどういうものか、手法や理解を深めるための職員研修会を9月に行った。一昨日は実践的な研究発表を行い、他校からの多くの見学者もあった。モデレーションにより生徒にはどのような効果があったかということが議論された。例えば音楽の授業では、曲にふさわしい演奏の仕方では何を考えなければならないか、自分たちで考えた取り組みを実践し、生徒は評価基準を決めることにより曖昧なことなく具体化されたことにより活発な授業が展開された。モデレーションが適した授業、そうでない授業とあるが、まずはいろいろやってみることから取り組んでいき、3年間の成果を積み重ねていきたい。

○倉橋(生徒活動グループサブリーダー)

生徒指導及び支援について説明したい。部活動、委員会活動など生徒の活動成果を校内外に向けて発信すること、それらを言語化して振り返ることを重点に取り組んできた。昨年度に引き続き、上溝高校掲示板を校内に設置して各部活動の取り組みや応援を共有している。その結果、部活動加入率が昨年度 63%から 70%に上昇した。1学年教員の声かけ、各顧問の部活動づくりにより非常に活気づいてきている。委員会活動については、3月の生徒総会場で各委員会からの報告を行うことを計画している。

続いて、生徒会本部役員の主な取り組みについて(資料6)。今年度も神奈川ハイスクール議事に本部役員代表生徒が参加し、県議会で高校生として提案を行った。また、上溝ルールメイキングプロジェクトとして生徒の意見を集約し、今年度は支援相談グループと協力して夏服のポロシャツを導入した。今後も取り組みを進めていきたい。

文化祭について(資料8)。今年度は卒業生を招いて中庭でライブを実施した。ほかにも活発な取り組みがあった。続いて部活動の活動成果について(資料9)。

運動部は男子バレーボール部やバドミントン部を中心に各部活動で成績をあげている。また、今年度はボランティア同好会を設立した。多くの生徒が加入して地域に貢献している。地域連携としてはダンス部が上溝イルミネーションに、軽音楽部が上溝夏祭りに出演した。児童文化部は地元の保育所や児童クラブで今後も発表予定である。

2月に予定の上溝公民館祭りでは本校生徒がポスターのデザインを作成した。当日は華道部、茶道部、ダンス部が参加を予定している。

○池田(支援相談グループリーダー)

今年度は特に服装の規程などいま生徒が守るべき課題を共通認識として明示し、逸脱することがあれば同じ指導を行い注意を与え、生徒自身が気付いて規範意識を高めていくことを目標としている。1学期は交通事故や交通安全に関する苦情が多く、これらに対する取り組みも進めた。

支援関係では4月と10月にいじめ防止対策会議を開き、各学年での現時点での課題等を確認した。

具体的な活動について。相模原市警察署の協力も得て第2回地区交通安全デーを行った。通常は同じポイントに立つところだが、今回は横山公園の坂道の自転車の乗り方についての苦情もあったことから職員を配置して確認してきた。本校生徒のほかにも相模田名高校、愛川高校の生徒など高校生がかなりのスピードで歩道を走行している状態を確認した。本校生徒に限らず減速して安全に通行するよ

う指導した。また、今年度もスケアードストレイトを実施した、本校生徒の目前でスタントマンにより交通事故の瞬間を再現して見せることで交通安全意識をもたせることができた。

支援関係では、困難を抱える生徒が増えてきている印象がある。神奈川県では神奈川県では神奈川県子どもサポートドックを推進しており、本校でもスクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを交えて各学年で気になる生徒をピックアップし、プッシュ型面談を進めるよう取り組んでいる。

○丸茂(キャリアグループリーダー)

資料4ページの3以下、中間報告としてお示ししたい。生徒が高みを目指してチャレンジする、将来主体的に社会に関わる意欲の育成、ICT教材(リクルートのスタディサプリ)の活用、といったことを主に1年間の指導を進めている。

校内評価の達成状況について。1年生は全員に大学を検討させている。実用英語検定については2年生全員を受検させる取り組みも4年目となった。準2級に合格すれば次は2級を目指す、不合格ならばあらためて次回の準2級合格を目指すというように全員受検をひとつの足がかりとして進路意識を高めていきたい。現3年生では準1級合格者が2名おり、決して大学入試のためのものではないが大学入試ではかなり優位に立つものと思われる。

次に現段階での進路状況について。今年は就職希望の生徒がおり、すでに内定を得ている。専門学校進学希望の生徒も多数いるが、ここでは四年制大学・短期大学に絞って説明する。受検形態については、今年は学校推薦型選抜(指定校制)の志望者が減った印象がある。一方、総合型選抜の志望者が多かった。これについては生徒の希望もあるが、各担任が非常に丁寧に指導した結果であると考えている。なお、本日生徒からの報告があったところでは、國學院大学の総合型選抜で2名の生徒が合格している。このほか日本大学、日本体育大学にもやはり総合型選抜で合格者が出ており、3月には最終結果の報告をしたい。私たちが生徒に伝えているのは第一志望の追求であり、高みを目指してチャレンジするという気持ちである。学校推薦型選抜(指定校制)のリストの中に第一志望校があればよいが、学校推薦型選抜(公募制)、総合型選抜、一般選抜によりリストに無い学校にチャレンジすることを生徒の力を見ながら指導していきたい。今年は国公立大学を目指す生徒が5名位おり、難しいとは思いますが最後までチャレンジを促し支援していきたい。

○橋口(地域連携グループリーダー)

地域との協働という点について。今年はボランティア活動に力を入れていくということで例年行われている駄菓子屋さんボランティア、上溝にこにこ子ども食堂の年間予定については第1回の学校運営協議会で示したとおり。こちらもボランティア同好会の立ち上げに伴って参加人数が増加した。ボランティア同好会については茅ヶ崎の海岸清掃に参加するなど活動の幅を広げている。

学校訪問に関連しては SNS 等の連携及び活用を広げている。神奈川県教育委員会からの指示も踏まえ、動画配信として YouTube 活用による発信を強くしていきたい。とくに今年は校舎内の見学を動画でできるようにして公式ホームページで配信している。

〈資料14〉学校案内パンフレットに示すとおり、学校説明会は12月13日(土)を最終回として予定している。来年度の受験を考えている生徒及び保護者の来校を前提に準備を進めている。今年度の新

たな試みとして、県立有馬高校の主催による相模線沿線の高校4校の合同説明会に参加した。8月1日(金)に実施した学校説明会でのアンケート集計も載せているのでご覧いただきたい。

地域との交流として11月12日(水)には例年どおり上小交流会を行った。上溝小学校の児童が来校し、また、本校生徒が上溝小学校に出向いてさまざまな活動により交流を深めた。

生徒の福祉委員会の活動としては1学期は車椅子体験を行った。

○木村(学校管理グループリーダー)

防災避難訓練について。第2回防災避難訓練を10月22日(水)に実施した。各教室で地震を想定して机の下に身を隠した後、グラウンドにクラスごとに避難する予定であったが、雨天のためグラウンドへの避難は行わず全校生徒を体育館に移動させ、相模原消防署上溝分署の協力により地震発生時の火災を想定した初期消火訓練を行い、代表生徒が水消火器による消火訓練を体験した。また、実際に消火器を使用する際の注意点、避難する際の注意点等を確認した。次年度以降もこのような形でさまざまな関係部署と連携した訓練を継続していきたい。

もう一点、1学年生徒を対象にDIG(災害図上訓練)を11月25日(火)のLHRの時間に実施する。ひとり1台端末を活用し、相模原市で公開している防災マップを使いながら学校周辺にどのような危険が潜んでいるか、どのような対応が考えられるかを生徒に考えさせていく。

なお、資料にはないが12月16日(火)には神奈川県より普通教室全教室に移動式の電子黒板が導入される予定である。

○副校長

これより各学年からの報告を受ける。

○橋口(1学年)

地域探究について。今年度からブラッシュアップさせていく点からクラスごとに連携先とのつながりを持たせ、どのような課題があるかの視点から課題解決の方法について研究し発表する形態で進めている。連携先については本日お越しの委員の方々のご協力もいただいております、ご協力に感謝する。2学期には第1弾の取り組みとして講演会を実施した。生徒が考えていることに対していろいろご回答をいただいた。生徒が気付いていなかった点が明らかになるなど、収穫が大きかったようだ。今後はクラス内の各グループの課題の設定を基に、その解決に向けて情報収集を進めていく予定。グループによっては計画を立て、地域に出向いて情報収集を始めている段階である。1月以降に各クラスのグループでまとめたクラス内発表を行い、3月中旬には各クラスで選抜された代表による学年発表会を行う予定である。

○木村(2学年)

2学年では9月30日(火)から10月3日(金)までの3泊4日で修学旅行を行った。昨年度までは北海道へ行っていたが、旅行費用が高騰したため今年度は長崎方面とした。資料に載せてある行程表とは若干異なるところもあるが、1日目は羽田空港から空路で長崎空港へ、長崎空港からバスで長崎平

和公園へと移動した。平和公園で献花した後、各クラスでバスガイドの説明を受けながらさまざまな関連施設をまわり、最後には原爆資料館を見学した。かなり真剣に見入っている生徒もおり、平和学種の目的は達成できた。2日目の午前中は、いくつかのコースの中から生徒それぞれが興味関心により希望のコースを選択して体験した。スポーツ体験ではマリンスポーツとしてヨットまたはカヤック、伝統文化体験では長崎市内でガラス工房、近代産業体験では長崎港から船に乗り軍艦島を見学し、自然環境体験ではイルカウォッチングなどふだんの学校生活では経験できないことが体験できた。午後は市内の班別自主行動ということで、班ごとに立てた計画に基づいて行動した。長崎市内では路面電車による移動を計画通りに実行できた。3日目はハウステンボスにて、オランダ・アムステルダムをモデルにしたヨーロッパの街並みのなかで異文化を体験した。最終日は雨天となったが午前中は吉野ヶ里遺跡及び太宰府天満宮を訪れた。午後は福岡空港から帰路につき、羽田空港には 17:00 前に到着した。大きく体調を崩す生徒、けがをする生徒もなく全員が無事に過ごせたこと、さまざまな体験ができたことで生徒の反応もよかった。

(2) 委員からの質問、意見

○横山委員

各グループからいろいろなお話をいただき、どのグループも子どもの目線で考えていただいております素晴らしいと思った。学習面で「授業の中で示された狙いについてできるようになった」の評価で「かなりあてはまる」が昨年度より5ポイント上昇したという点。前回の会議でもお話しさせていただいたところだが、先生方の今までの積み上げの成果であると思う。これからも継続していただきたい。

モデレーションというものは初めて聞いたが、私自身も興味深いものであり勉強してみたい。先ほどの話では3年間継続したいということであったが、ぜひ取り組みの成果をお知らせいただきたい。

ここで中学校での部活動について、相模原市内および神奈川県内での様子をお話したい。国の方からは令和13年を目標に地域展開を進めてほしい、まずは休日の部活動を地域で展開するよう指針がでていいる。これについて中学校長会の研究会で情報連携してくると、都道府県により進め方がまったく異なる。比較的に進んでいるのが神戸市で、令和8年度の夏以降から平日も休日も地域で展開するという話で実際のクラブ数も 800 から 1000 が集まっているそうである。その中には釣りクラブ、ダンスクラブといった中学校の部活動ではないようなクラブも登録しているとのこと。平日と休日で異なるクラブに行くことができ、子どもたちの選択が増えるだろうと言われている。これに対して熊本のように、部活動を継続すると明言する自治体もある。今後、どのように地域と絡めていくのかはわからないが非常に差があることところである。神奈川県内でも差があり、県立高校なので相模原市外の生徒も在籍するであろうがそこでも差が出ると思う。相模原市内の中学校では朝練はやっていないが、川崎や県央地区では朝練をやっている中学校もある。また、部活動は 17:00 に終了している学校が多いが、いくつかの学校では3年生の最後の大会直前は 18:00 まで認めるところもある。これから日没が早くなると 16:30 で下校ということになり放課後の部活動は難しいだろう。中学校としては活動時間を確保していくかがひとつの課題である。相模原市内での地域展開はどうしているかという、やっと話が始まったという段階。昨年、審議会が立ち上がり、そこでの答申が市長に出された。それを受けて行政が今年、方針を出すところであり、具体的なことが言える状況ではない。ここで話しできる範囲でいうと、最終的には令和13年であるが、

休日だけは早めに地域に展開していく、平日は部活動、という形で相模原市は動いていく状況であるとご理解いただきたい。先ほど部活動の加入率が上昇したという報告があったが、中学校でそのように変わってくるので、地域クラブが高校生を受け入れるなら今後の部活動の加入率が下がることもあり得るかもしれない。令和 13 年という時期が国から示されているので、高校の部活動のあり方もちょっと違ってくるのではないかという感じである。

○小山委員

同窓会として上溝高校の文化祭でオフィシャル参加させていただき、生徒の様子を知ることができてとてもよかった。先生方が一所懸命に取り組んでいる様子もわかり、これからも継続して行ってほしい。いま部活動の話があったが、中学校では活動時間が制限されているので高校では自由に(活動)できるのでないかと考える子どももいるようだ。高校に来てどうなるだろうかと思う。

○鈴木委員

最近、1年生とやりとりしているが、地域に目を向けるというのは非常に素晴らしいことだと思う。また学校外に出ているいろいろなことを体験するという、神奈川ハイスクール議会などもそうだが、これも素晴らしいものだと思う。今日の授業を見て、一昔前とは授業のあり方が全く変わってきていると感じた。ふるさと納税の返礼品として何がよいかなど面白いことを考えさせていた。ああいったことを若いうちから研究すること、大人と関わることが非常にいい経験になると思う。一方、部活動の話が出ていたが、地元の小学校でも子ども会がなくなり登校班もなくなってしまっている。子どもたちが一緒に活動する場が少なくなっている中で部活動も縮小している。私などは中学校・高校に部活動のために通っていたようなところがあり、そういう場が失われているのは寂しいと思う。上溝高校では活発な部活動がいくつかあり、お祭りやイベントに出演してもらったりしているので今後も部活動が披露できる場を提供できるよう商店街としてもいろいろやっていきたい。文化祭などでも協力を考えたい。

○永野委員

11 月 8 日(土)の上溝ふくしまつりには多数の生徒が参加してもらった。今日の授業を見ていて、相模原市のふるさと納税を考えるとといったテーマのように生徒の提言が実現できるといいと思った。1学年の、上溝地区社会福祉協議会や商店街などでの課題の追求というのも楽しみにしている。

防災避難訓練について。大分で大火があったが、学校では消火栓というものがあるのかどうか、消火器の数はどれくらいあるのか、火を使うことはないと思うが廊下を歩いたときには消火器の所在を明示するものが見当たらなかったようで万一の場合にはどうなるのかと思った。

〈回答〉副校長、事務長、木村より

- ・消火栓は校舎内には無い。校外にあるのは学校に向けて使うものではなく外部で使用するものかと思う。消防法に従って消火器は設置している。露出はしておらず各階の壁面に収納されている。

○山口委員

各グループリーダーから説明してもらったが、上溝高校の先生方は素晴らしい活動をしており大変ご

苦労されていると思った。皆さんの熱意が伝わってきた。授業見学では、数学の授業を見せてもらったが素晴らしい先生だった。国語の授業ではお互いに読み聞かせのような演劇のような形で進めていたが、これも本当に楽しそうだった。私にとって国語の授業とは、誰か1人が読むのを聞いて感想を述べさせたりするものだった。いくつかのグループに、ペアはいつも決まっているのかと聞くと「決まっています」という返事。楽しいかと聞くと「楽しいです」ということで、実際に授業は楽しいだろうと思った。

修学旅行の件。学校説明会の中で修学旅行のこれからの行き先について触れていたが、上溝高校では修学旅行の決め方はどのようになっているのか知りたい。

〈回答〉秋庭

修学旅行については学務グループが仕様書を作成している。今年度からは旅行先の地域のことを多面的に学ぶことを仕様書に盛り込んでいる。

○山口委員

北海道、京都・奈良、九州、沖縄など行き先は様々あったが、場所の選定についてはどのようになっているのか。

〈回答〉秋庭

上溝高校では北海道が長く続いたが、旅行費用が10万円という規程がある。78期生までは北海道に行っていたが、3泊4日を10万円で北海道、沖縄というのは厳しくなっている。費用の面や本校生徒にとって学ぶことが多いという点から長崎方面とした。

○山口委員

10万円というのは県で定めていると思うが、県からの補助は無いのか。

〈回答〉

秋庭:旅行費用について県からの補助は一切無い。職員の旅費は県の負担である。

池田:遠距離の場合は2泊3日としている学校もある。神奈川県はずっと10万円である。

校長:国内で10万円、海外で12万円という上限は20年前から変わっていない。校長会からもこの物価高の折、修学旅行が実施できないという申し入れはしているが、変わっていない。沖縄、北海道はもはや無理である。

○山口委員

燃料費が上がる、食費が上がる、バス代が上がるという状況では修学旅行に行けなくなるのではないだろうか。

〈回答〉

校長:校長間の情報交換でも本州からは出られないという状況である。

○山口委員

校長挨拶の内容に関して。上溝高校の歴史と伝統、地域とのつながり、他者に対する優しさを主張しているということはいいことだと思う。自分も校長だったが、このように端的にしっかりと説明することが保護者にとっても生徒にとっても絶対に必要なこと。私はこのような学校にしたいという目標は強調してほしい。この上溝高校は地域の人達に本当にかわいがられていると思う。部活動が外に出て一所懸命にやっていることに感謝しているという声も聞いている。これからはがんばってほしい。

〈回答〉

校長：中間層の生徒を取り込みたいという気持ちがある。いろいろな特徴を前面に出す学校もあるが、安心感というものを打ち出すのがいちばん訴えられるところかと思っている。

○小泉会長

お願いを含めてお話ししたい。まず、学食を大事にしてほしい。全日制高校で学食があるところはほとんどなく、これも特色である。私が着任したときは業者が撤退してしまい、食堂に行ってみるとうす暗くて汚いところで、PTAと協力して明るくきれいにし、オリーブの実(業者)に頼んで十数年も続けている。本当に希有な例だと思うので学食は大切にしてほしい。

授業見学のときに違和感があったのが服装のこと。私の頃はジャージを着ていたり、カーディガンや他校のジャージを着ている生徒がいた。それがすごく嫌だったのだが、生徒指導が大変な時期の名残で頭髪指導一点で厳しくしていたのでそれ以外のことには手が回っていなかった。消火器の話で思い出したのだが、消火器の消化剤が撒かれていたこともあった。15年前にはそういうことがあったのだが、授業を受ける生徒の服装が整っているのを見ると、いい学校になったな、先生方の努力の賜だなと思う。服装指導がちゃんとできるというのは大事なことなので続けていってほしい。

日産自動車の経営が危なくなり、ゴーン社長が社員を整理したとき、指定校制推薦が決まっている生徒が進学できなくなり謝罪しに行ったこともあった。今はそんなことは無いと思うが、生徒からの相談はちゃんと受けてほしい。ボランティア同好会の生徒が30名余いるとのことで、すごくよい、頑張って伸ばしていってほしい。

モデレーションについてはよくわからないところがあるが、授業の中でモデレーションとはどんな活動をするのか、教えていただきたい。

〈回答〉

秋庭：様々あるが、たとえば国語の授業ならば、課題の文章を書くとき、どのように書けていけばAか、またはBかCか、という議論に生徒を参加させる。授業の中で、ここまで書けていけばいいのではないかという生徒の考えに対し、教員としてはここまでは欲しいというところをすり合わせる。教員としてここは譲れないからここまでは書いてほしいということを示し、生徒はそれを理解して自分はそのままで書けていないからそこに達するようにがんばろう、といった気持ちを起こさせる。

○小泉会長

生徒の活動としては、グループ協議をやり、発表したことについて教員がコメントをするようなことだろうか。

〈回答〉

秋庭：これも授業によるが、モデレーションというのは評価基準や評価結果を調整するものである。

○小泉会長

単元の評価規準は変えられないのではないか。

〈回答〉

秋庭：評価規準は変えられない。

校長：評価規準は変わらないが、評価基準(成績)のラインをどこにおくかを生徒たちが話し合っていていくことになる。

○小泉会長

主体性の確保が一番大きいだろう。学習評価の妥当性と信頼性、とくに妥当性をどのように担保するかがうまくできれば、と思う。研究結果として残せるものは残してほしい。

横山委員に尋ねたいのだが、私学志向はどの程度のものか。

〈回答〉

横山委員:上溝中学校の生徒は公立志向が強い。前任の谷口中学校では私立志向、公立志向が半々だった。そこは地域によって全然違って、谷口中学校は交通の便がよいので生徒は横浜の公立高校も受験するし、厚木高校や湘南高校にも進学する。世田谷の私学にも進学するので谷口中学校の生徒が受験する学校はとても多い。上溝中学校の生徒は相模線を使えば湘南高校にも行けるだろうが、交通事情からすると限られたもの。中学校により公立志向か私学志向かは変わるが、上溝という地域は公立志向が強い。上溝中学校では上溝高校が人気である。

○小泉会長

倍率的には今年も変わらないだろうが、10年先はわからない。

○横山委員

そう思う。今年も人気はあるだろう。去年は相当な倍率でかなり不合格者があった。

○林田校長

校長として倍率は非常に気にするところである。私学の授業料無償化が公立高校の倍率に影響を与えるだろうとは言われている。この地区の交通事情の問題は大きな要素かと思うが、やはり学費がかからないというところの動向がどうなるか、県立を含めた公立高校には大きな問題になってくと思う。

6 副校長閉会挨拶

- ・次回、第3回は3月6日(金)の予定。